

令和2年度新たな地域コミュニティ支援事業における効果検証及び区長評価

受託事業者による支援の実施状況についてPDCAの観点から効果検証を行い、その結果を今後の事業内容に反映させ事業効果を高めるとともに、来年度以降の地域活動協議会の支援のあり方について検討する。また、取組みの効果について区長評価として総合的に評価を行い、結果について公表します。

1. 受託事業者による支援の実施状況について効果検証

受託事業者の今年度の取組実績、各地域活動協議会取組状態・自律度の状況（16地域）から取組項目ごとに検証を行い、測定結果を下記区分 s～d としました。

- s 期待以上の支援効果となっている。
- a 効果的な支援となっている。
- b 概ね効果的な支援となっている。
- c 効果的な支援になっていない部分がある。
- d 効果的な支援になっていない。

取組項目ごとの効果検証結果

取組1 自律的運営に向けた地域活動協議会の取組について

地域の広報誌作成にかかる支援や、事業変更・書面議決のための手続きの支援など、コロナ禍でも可能な活動や支援を重点的に行うよう切り替えたことについて一定評価できる。一方でICT化や新たな担い手の確保については課題認識されているものの、具体的な手法の提案や、実施・効果測定までには至っておらず課題が残る。

区分	b	概ね効果的な支援となっている
----	---	----------------

取組2 事業の実施体制等

提案事業者の経験やノウハウを活かし、自主財源確保について本年度3地域のコミュニティ回収、9地域でのペットボトル回収をスタートさせるなど、非常にスピード感をもって取り組まれたことについて評価できる。課題としている講習会の実施や地域課題の把握については、コロナ禍でも可能な手法への再構築が求められる。また、当区との事務手続に関して、各種報告書類の提出遅延や不足事項の訂正に時間を要することがあった。

区分	b	概ね効果的な支援となっている
----	---	----------------

取組3 今年度の重点支援策

町会加入促進チラシの作成やポスティングについて、丁寧に地域と連携したことにより地域がポスティングを担うこととなるなど、効果的な自律支援ができており評価できる。一方で実施時期の遅れから、配布規模や効果検証に課題が残る。まちセンカフェや水門見学会などは単なるイベントにするのではなく、目的を明確にすることで、今まで地域と接点のなかった団体や人と、地域との接点を作るツールになる新たな取り組みとなった。

区分	b	概ね効果的な支援となっている
----	---	----------------

2. 区長評価

各地域活動協議会取組状態・自律度の状況及び地域活動協議会への支援についての構成団体アンケート結果から地域活動協議会の全16地域がどれだけ目指すべき状態に近づけたかを総合的に評価し下記区分S～Dとしました。

- S 支援内容や目標の水準を大幅に上回っている
- A 支援内容や目標の水準を上回っている
- B 支援内容や目標の水準を概ね達成している
- C 支援内容や目標の水準を下回っている
- D 支援内容や目標の水準を大幅に下回っている

特記事項

コロナ禍による活動の制約があったことで当初計画通り事業を実施できない状況があった。一方で自主財源確保にかかる取り組みなど長年課題となっていた取り組みに大きな改善があったことは評価できる。

評価	B	支援内容や目標の水準を概ね達成している
----	---	---------------------